# 「福島大学学生教育支援基金」

## 平成30年度 支援事業 活動紹介 中間報告

福島大学学生教育支援基金は、地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身につけることができるような教育環境を整備することを目的とし、学生支援や国際交流、学生教育環境整備事業等を支援します。平成30年度は、同基金による支援事業として、留学補助等の4事業を採択しました。本紙では、事業の内容をご案内するとともに、様々なフィールドで活躍する学生の取組みをご紹介します。

**ご寄付いただきました皆様に深く感謝申し上げます。**

## 福島大学と海外協定校による双方向交流事業

国際交流センターでは、本基金を利用し、学生のグローバル意識啓発及びグローバル人材育成を目的とした海外協定校への学生派遣プログラム及び海外協定校からの留学生受入プログラムの企画・実施を行ってきました。

派遣事業では、現在22名の学生を交換留学生として海外協定校へ1年間の予定で派遣しています。また、短期派遣プログラムでは、韓国・中央大学短期語学（韓国語）研修、オーストラリア・クイーンズランド大学短期語学（英語）研修、世界展開力強化事業・トルコ・アンカラ大学等短期派遣事業、ウイニペグ大学短期語学（英語）研修を実施しました。留学先では、語学学習や異文化体験だけでなく、現地の学生や他国の留学生とも交流することができ、さらには世界展開力強化事業においては、トルコの農業の実態について現地の教員より直接学ぶとともに関連施設の視察を行うなど、参加した学生はとても有意義な経験をすることができました。

また、受入事業においては、前期は23名、後期は30名の交換留学生を受け入れることになりました。彼らには、日本人学生との交流の機会を設けるなど本基金を利用した国際交流の機会を提供することとしております。さらには、24名の留学生を招聘してFukushima Ambassadors Programを実施したほか、共生システム理工学研究科によるコロラド州立大学大学院生5名を招聘しての超短期受入プログラムの実施、世界展開力強化事業におけるトルコの大学生15名の受入プログラムの実施など、超短期受入プログラムでの留学生受入にも注力しました。

クイーンズランド短期語学研修
でホームステイ家族と記念撮影

世界展開力強化事業・トルコ短期派遣
トルコの学生と記念撮影

交換留学（韓国外国語大学）
留学生仲間と教室で記念撮影

## 多文化体験による国際人育成プログラムの創出 ～観光を通して～

私たちは昨年度の成果を継承発展させるべく、観光をテーマとしたプログラムを企画、前回と同様の方法で各地域の観光観や日本および福島の観光に求めるもの等に関するアンケートを実施し、また現地の観光事業の実状を視察し、他方で観光に関係する日本の伝統文化を実演つきで紹介する活動を行っています。

韓国・ソウルでは、ソウルグローバル文化体験センターを訪問し、同施設の目的と観光事業への取り組み等について学ぶとともに、韓服の試着や伝統おりがみなどの文化体験を行いました。ロシア・ハバロフスクでは、ロシア観光業連盟極東地域支部長によるインバウンドツーリズムに関するレクチャーを受けるなど、ハバロフスクの観光事情について学び、現地で福島の観光をテーマとしたプレゼンテーションも行いました。

中国香港・広東省では、現地の観光資源の特徴について学び、インバウンドの重要課題として挙げられる「キャッシュレス化」の実態調査も行いました。また、広東海洋大学寸金学院との合同研究発表会等を通じて、日本と福島の魅力について積極的に発信しました。

タイでは、JETROや総領事館で観光政策について話を聞くとともに、現地旅行企業5社を訪問し、日本への旅行の特徴についてインタビュー調査を行いました。

今回のプログラムが昨年同様、学生に世界各地域の多様な価値観に対する理解を深めてもらう、その大きな契機となることを期待しています。

中国・アンケート調査の趣旨と目的を
説明する様子

タイ・シーナカリン大学の皆さんと

## 「学習コミュニティ」の形成に向けた学びのナビゲータープロジェクト

昨今、大学教育における授業支援や学習支援の領域で、先輩学生が支援者となって活動が展開される事例が増えつつあります。福島大学では総合教育研究センター（教務課）と附属図書館（学術情報課）の連携のもと、学生の学生による学生のための全学的な教育・学習支援活動「学びのナビゲータープロジェクト」が推進されています。学びのナビゲーターと呼ばれる学生スタッフは、教員による指導と職員によるバックアップを受けながら、福大生の主体的学習を盛り上げる取組みを企画・実施しています。

前期に取組んだ具体的な活動には、①学習相談、②出前授業、③自己研修、④対外的な活動発表・ワークショップへの参加などが挙げられます。①学習相談では、附属図書館2階の学びのナビコーナーにて平日の2コマ・お昼休み・3コマの時間に学生からの質問に対応しています。

②出前授業では、『教養演習』などの初年次教育課目を中心に、授業担当教員と連携しながらレポート・ライティングに関するワークショップを考案・実施しました。③自己研修では、学びのナビゲーター自らがアカデミックスキルの獲得に向けて、思考の整理法やディスカッションの方法を経験的に学ぶ機会を設計・実施しています。④では岡山大学で実施された「教育改善学生交流 i*see」に参加するなど、他大学との交流や本活動の発信も積極的に行いました。

正課内外問わず学習支援の活動に従事する学びのナビゲーターの学生は、彼ら自身が「アクティブ・ラーナー（主体的学習者）」として本学の教育・学習を活性化させる存在でもあります。学びのナビゲーターは

今後も大学教育と大学生の学習の可能性を探究し、それを体現していく存在として、更なる活躍が期待されています。

学習相談

自己研修

出前授業

## 学生サポーターの養成と実践

アクセシビリティ支援室は、様々な障がいや疾患のある学生が、障がいのない学生と同様に充実した大学生活を送れるよう、修学支援のための窓口として平成27年に設置されました。授業面での支援に加え、障害学生を支援する「学生サポーター」の活動の機会も少しずつ増えています。

学生サポーターの活動として、現在はノートテイカーを養成しています。毎月の講習を行い、手書きテイカーが少しずつ増加しているところです。講習では何度もノートをとる実習を行います。「きれいなノート作り」ではなく、どうやったらその場の雰囲気なども含めて、聴覚障害のある学生に「授業に参加している」感覚を持ってもらえるか、受講生それぞれが苦労しながら練習していました。

福島大学公式
マスコットキャラクター
めばえちゃん

また、昨年度に引き続き、これからの冬期間は、肢体不自由のある学生が安全に移動できるよう、雪かき隊を募集しています。肢体不自由学生にとって、積雪が2cm以上になると移動に危険を伴います。降雪時の除雪、傾斜や階段の凍結予防（融雪剤散布）を行う予定です。多くの学生の参加を期待しています。

障がいのある学生へ直接の支援を行うとともに、本学の構成員一人一人が障がいに対しての知識や支援を学ぶことも重要です。今後は障害者体験、支援機器の体験会など、障害への理解を深めるための取り組みを行っていく予定です。

ノートテイカー研修会の様子①

ノートテイカー研修会の様子②